

授業科目：看護学特論★	講師名：堀内 吉美 看護師	1 単位 30 時間 履修時期 1 年生前期
【科目目標】 1. 「看護とは」について考え、自分の考えを持つ。 2. 看護の歴史について知り、現在を考える。 3. 健康の概念について理解を深める。 4. 人間についての理解を深め、人間を統合体として理解するということが分かる。 5. 社会における看護の位置づけ、多職種との協働、看護の役割と機能について考える。		
回数	講義内容	学習方法
1	看護とは 看護の学習について 4つの思考リテラシー	講義 GW
2	看護の過去から現在まで	講義 GW
3	看護実践における重要な概念 人間について考える 健康について考える	講義 GW
4		
5		
6		
7	看護であるもの・ないもの	講義 GW
8		
9	病院見学実習	OR 見学実習 まとめ
10		
11		
12		
13		
14	看護の役割と機能	講義 GW
15	専門職としての看護	講義 GW
【教科書】 新体系 看護学全書 基礎看護学① 看護学概論 メヂカルフレンド社.		
【参考書】 講師名：加納 里美 看護師 フロレンス・ナイチンゲール著 小玉香津子・尾田葉子訳；看護覚え書き-本当の看護とそうでない看護 日本看護協会出版会		
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター		
【評価方法】 筆記試験100点、 提出レポート・授業態度(グループワーク)含む。		

授業科目：看護倫理★	講師名 堀内 吉美 看護師	1 単位 30 時間 履修時期 1年生後期
<p>【科目目標】専門職業人として看護実践していくために、看護倫理に関する基本的な知識と倫理的意思決定を行うための基礎を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理について基本的な考えを理解する。 2. 看護倫理について基本的な知識と倫理的意思決定を理解する。 3. 看護師に求められる倫理的判断について考える。 4. 看護師の倫理的責任と法的責任について理解する。 5. 看護の場で生じやすい倫理上の問題について考え論じ合う。 		
回数	講義内容	学習方法
1	1. 看護倫理についての基礎知識 1)倫理とは 2)価値、規範 3)倫理と道徳 4)倫理と法律	講義
2	5)看護倫理とは ①看護の専門職業人としての法的な義務と責任 ②日本看護協会の看護者の倫理綱領 2. 看護倫理のアプローチ 1)徳の倫理	講義
3	2)原則の倫理	講義
4	3. 看護倫理に関する重要な意味をもつ言葉 1)ケアリング	講義
5	2)アドボカシ-	講義
6	3)協力と協働 4)パートナーリズム 5)個人の権利：権利と義務、ICN看護師の倫理綱領 6)看護職の責任	講義
7	7)インフォームド・コンセント 8)情報プライバシーと守秘義務	講義
8	4. 看護活動と倫理	
9	5. 倫理的意思決定のステップと事例検討	講義
10	看護実践の中で遭遇する倫理問題を乗り越えるためには、倫理の基本的知識を学び、さらに倫理の原則を活用して、倫理的意思決定を行なっていくことが必要と分かる。	講義
11	1)基礎 I 実習で経験した倫理的ジレンマの整理	講義
12	2)臨床における倫理的問題に関する事例検討	講義
13	事例検討発表会	グループの 学びの共有
14		
15	まとめ、看護専門職組織の役割と倫理	
<p>【教科書】 1. 新体系 看護学全書 基礎看護学① 看護学概論 メヂカルフレンド社 2. 看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ 編者：小西恵美子 南江堂</p>		
<p>【参考書】看護者の基本的責務-基本法と倫理 編者：日本看護協会 日本看護協会出版会 看護倫理 松葉祥一 他 医学書院、看護実践の倫理 サラT.フライ 日本看護協会出版会 看護倫理 監修：アンJ. デーヴィス 日本看護協会出版会、ワトソン看護論ヒューマンケアリングの科学第2版 ジーン・ワトソン 医学書院</p>		
<p>【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター</p>		
<p>【評価方法】 筆記試験 100点満点（提出物、出席態度を含む。）</p>		

授業科目： 看護理論★	講師名 山角 優美 看護師	1 単位	30 時間	履修時期 1年生後期
【科目目標】 A1. 先人の代表的な看護論を理解する。 1)ヘンダーソンの看護観を理解する。 2)グループの中で自己の考えを表出する姿勢を身につける。 B1. 看護論を活用して自己の看護観を模索する。 1)文献の読解力と自己表現力を身につける。 2)既習の学習と看護理論を基礎看護学実習Ⅰと照らし合わせながら看護に対する考え方を整理する。 3)自己の看護に対する考えを導き出す。				
回数	講義内容	学習方法		
1	看護と看護論の関係	講義		
2	A 「看護の基本となるもの」抄読会オリエンテーション	講義		
3	繰り返し話題となった、ヘンダーソンの伝えたい看護とは何か、を整理する。	GW		
4				
5				
6	著者の看護観の理解・発表	発表会 まとめ ピア評価		
7	グループメンバーの評価実施			
8	B 基礎看護学実習Ⅰの経験をもとに看護論を活用して、自己の看護を振り返る。 実習グループで各自実践における学びを共有する。 トラベルビー「人間対人間の看護」の目次を参照し、実践における学びに関連していると考ええるテーマ、キーワードの章を抽出する。 選択した章を中心にグループで大切にしたい理論に基づく人間とは・看護の対象とは、看護とはどのようなものか、事例を活用して具体として説明、抽象化して整理する。	GW		
9				
10				
11				
12				
13				
14	トラベルビーの考え方に基づく人間とは・看護の対象とは、「看護とは」を事例に活用して解釈し、グループの理解を発表する。	発表会 まとめ ピア評価		
15	グループメンバーの評価実施			
【教科書】 新体系 看護学全書 基礎看護学① 看護学概論 メヂカルフレンド社 ヴァージニア・ヘンダーソン、湯楨ます・小玉香津子訳.看護の基本となるもの： 日本看護協会出版会 . トラベルビー、長谷川浩・藤枝知子訳. 人間対人間の看護: 医学書院. フロレンス・ナイチンゲール、小玉香津 講師名:加納 里美 看護師				
【参考書】 野嶋佐由美編.看護学の概念と理論的基盤: 日本看護協会出版会. 佐藤栄子編著.事例を通してやさしく学ぶ 中範囲理論入門: 日総研.				
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター				
【評価方法】 レポート:A テーマ「ヘンダーソンの看護観」、グループワークの取組みに対するピア評価と自己評価 レポート:B テーマ「自己の看護に対する考え方」、グループワークの取組みに対するピア評価と自己評価 A(50点)+B(50点)=100点				

授業科目:基礎看護学援助論 I ★		1 単位 30 時間 履修時期 1年生前期
内容	コミュニケーション	講師名:松原 成行 看護師
【単元目標】		
1. 看護におけるコミュニケーションについて考えることができる。 2. 患者―看護師関係の成立と発展の過程に影響を及ぼす要因を理解することができる。 3. 患者―看護師関係の成立に必要な基本的コミュニケーション技法を学び、他者に対する援助的関わりについて学ぶ。 4. プロセスレコードの目的や書き方について学ぶことができる。		
回数	講義内容	学習方法
1	コミュニケーションとは コミュニケーションプロセス メラビアン の法則 先入観と偏見	講義
2	ジョハリの窓 コミュニケーションの分類 演習 I 対人関係の距離 質問の方法	講義・演習
3	演習 II 「聴く」を実践する。聴くための環境を整える (* 実習室 服装:ジャージ)	演習
4	演習 III ロールプレイング (* 実習室 服装:ジャージ)	演習
5	プロセスレコードとは 書き方 分析・考察 プロセスレコード課題提示	講義
6	看護におけるケアリングとコミュニケーション	講義
7	コミュニケーションのプロセスに影響する要因 医療文化とコミュニケーション	講義
8	チーム医療におけるコミュニケーション アサーション コミュニケーション障害がある人の対応	講義
内容	感染予防	講師名:宮崎 悦子 看護師
【単元目標】		
感染予防に関する基礎知識を学び、感染予防に必要な基礎技術を習得する。		
回数	講義内容	学習方法
1	感染予防の基礎知識	講義
2	スタンダードプリコーションに基づいた感染予防策	講義
3	滅菌物の取り扱い・医療廃棄物の取り扱い	講義
4	手洗いの実際	演習
5	感染予防のための援助方法	演習
6	感染予防のための援助方法	演習
7	感染についてのまとめ	講義
【教科書】		
新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社. 看護が見える Vol① 基礎看護技術 メディックメディア		
【参考書】		
看護場面における感染防止 インターメディカ		
【使用予定視聴覚機材】		
PC、プロジェクター		
【評価方法】		
筆記試験:コミュニケーション(50点)+感染予防(50点)		

授業科目:基礎看護学援助論Ⅱ★		1 単位 30 時間	履修時期 1年生前期
内容	ボディメカニクス	講師名:瀬尾 要 システムエンジニア	
【単元目標】 物理学から見た看護動作を理解する。 どのようにすれば看護者は患者にとって負担が少なく、安全に看護動作を行うことができるか。また、看護者にとっても極力労力を少なく、スムーズに目的の看護動作を達成することができるか。このためには人体の力学的な構造を理解したうえで、物理的視点にのっとった看護動作を行わなければならない。授業では、看護動作を力学的視点から考察する。同時に授業を通じ日頃の動作や現象を物理的に思考する習慣を身につけてほしい。			
回数	講義内容	学習方法	
1	力の基礎 ①ベクトルとスカラー ②力の合成と分解 ③患者の移動 ④絆創膏の剥がし方と包帯の巻き方	講義 ・練習問題を行う。 ・実験的要素を取り入れる。	
2	運動とエネルギー ①作用反作用の法則 ②運動量と撃力 ③エネルギー保存の法則		
3	摩擦力および剛体 ①摩擦力 ②ナースシューズ ③トルクと腕の長さ ④剛体のつりあい条件 ⑤てこの原理の応用		
4	重心とその具体的解釈 ①各姿勢での重心位 ②看護の動作と脊柱への影響 ③腰痛の原因		
5	効率的看護動作 ①重心と安定性 ②看護での重心と基底面の確保 ③看護でのトルクとその考えかた		
【単元の評価方法】 ・出席時数・終講試験(50点満点)・学習態度(授講態度、意欲など)等からによる総合的に判断する。			
内容	活動・休息	講師名:大本 奈美 看護師	
【単元目標】 活動と休息の生体リズムを理解し、日常生活の基礎となる体位と移動の援助技術を身につける。			
回数	講義内容	学習方法	
1	活動の意義、運動がもたらす影響と効果、運動制限がまねく影響	講義	
2	良肢位と基本肢位、姿勢・体位を保持する条件	講義	
3	体位変換の援助方法、安楽な体位を体験してみよう。	講義・演習	
4	体位変換をやってみよう。 ①枕の取り外し ②水平移動 ③仰臥位から側臥位へ ④仰臥位から端座位へ	校内演習	
5	⑤ベッドの上方への移乗		
6	移送・移乗の援助方法、立ちやすい姿勢	講義	
7	移送・移乗をやってみよう。	校内演習	
8	①車椅子への移乗 ②車椅子の移送 ③ストレッチャーでの移送		
9	休息の意義、日常生活における休息・睡眠への援助	講義	
10	活動と休息のバランス	講義	
【教科書】 新体系看護学全書 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社			
【参考書】 佐藤和良:看護学生のための物理学, 医学書院 看護が見えるVol1: メディックメディア			
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター			
【評価方法】 ボディメカニクス(50点)+筆記試験:活動・休息(50点)			

授業科目:基礎看護学援助論Ⅲ★		1 単位 30 時間 履修時期 1年生前期
内容	環境	講師名:塚本 由利子 看護師
【単元目標】 健康的な環境条件について理解し、対象に必要な生活環境の調整とその援助技術を身につける。		
回数	講義内容	学習方法
1	環境と看護の「深い絆」を知ろう	講義
2	環境⇄人の相互作用を体験しよう♪	体験学習(演習室)
3	病室・病床の環境を調整してみよう①	校内演習
4	ベッドメイキング①	校内演習
5	ベッドメイキング②	校内演習
6	病室・病床の環境を調整してみよう②	GW
7	シーツ交換①	校内演習
8	シーツ交換②	GW
9	病室・病床の環境を調整してみよう③	講義 GW
10	病室・病床の環境を調整してみよう④	GW 校内演習
11		
【単元の評価方法】 筆記試験(50点)+技術試験(20点) (70点満点)		
内容	食事	講師名:真辺 恵子 看護師
【単元目標】 食生活の意義を理解し、対象の食生活の援助を行うために必要な知識と技術を身につける。		
回数	講義内容	学習方法
1	『おいしく食べて、満足、満足♪でも、それだけでいいの?』	講義
2	『食べられない・・・!そんな時、あなたならどうする??』	講義
3	『食べることを支えるために・・・看護師ができること』	講義
4	『Let's try!!食!~安全で、美味しく、美しい食事の援助とは?』	演習
【教科書】 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社. 看護が見える Vol① 基礎看護技術 メディックメディア		
【参考書】		
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター		
【評価方法】 環境(70点)+筆記試験:食事(30点)		

授業科目:基礎看護学援助論Ⅳ★		1 単位 45 時間 履修時期 1年生前期
内容	清潔・衣生活	講師名:加納 里美 看護師
【単元目標】		
1. 衣生活の意義を理解し、療養生活における衣生活の援助の視点を学ぶ。 2. 清潔の意義とその援助の目的を身体的・精神的・社会的視点から理解する。 3. 寝衣交換・全身清拭・洗髪・足浴・口腔ケアの方法を学び、実施する。 4. 清潔援助における安全・安楽・プライバシー保持の視点を理解する。		
回数	講義内容	学習方法
1	1. 清潔にすることの意義について考える。 2. 皮膚の機能と清潔 3. 洗剤	講義
2	1. 清拭の基本技術1—体験から考える。 1)暖かさや寒気 2)気持ちよい摩擦刺激 3)羞恥心について	校内演習
3	1. 清拭の基本技術2—患者にとって安全安楽な技術の習得 1)湯温の調整 2)ウォッシュクロスの巻き方・拭き方 3)バスタオルの使い方 2. 和式寝衣の紹介	校内演習
4	1. 整容・衣生活を調整することの意義について考える。 2. 病衣の条件 3. 臥床患者の和式寝衣交換	講義 校内演習
5	1. 全身清拭①	校内演習
6	臥床患者の安全安楽な全身清拭の実施	
7	1. 全身清拭②	校内演習
8	臥床患者の安全安楽な全身清拭の実施	
9	1. 全身清拭のまとめ 2. 足浴の実施	講義・演習
10	1. 洗髪の意義 2. 洗髪援助の目的と留意点 3. 洗髪車の使用方法 4. 洗髪チェアの使用法	講義
11	1. 洗髪 臥床患者の洗髪の実施	校内演習
12		
13		
14	1. 口腔ケアの意義 2. 口腔ケアの実施	講義・演習
【単元の評価方法】 筆記試験(40点)+技術試験(20点)		
内容	排泄	講師名:真辺 恵子 看護師
【単元目標】 排泄の意義を理解し、対象に応じた排泄の援助ができる知識と技術を身につける。		
回数	講義内容	学習方法
1	排泄の意義、排泄のしくみ	講義
2	排泄のアセスメントと援助の実際	講義(実習室)
3	排泄障害のある対象の援助	講義
4	排泄演習	校内演習(実習室)
5		
6	浣腸・陰部洗浄演習	校内演習(実習室)
7		
8	おむつ交換演習・排泄授業まとめ	校内演習(実習室)
【教科書】 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社。 看護が見える Vol① 基礎看護技術 メディックメディア 看護が見える Vol② 基礎看護技術 メディックメディア		
【参考書】		
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター		
【評価方法】 清潔(60点)+筆記試験:排泄(40点)		

授業科目: 基礎看護学援助論Ⅴ ★	講師名: 大本 奈美 看護師	1 単位 30 時間 履修時期 1年生後期
【科目目標】 健康を障碍されている人の行われている診療や検査が円滑で効果的に進められるように診療の補助技術を習得する。		
回数	講義内容	学習方法
1	[検査] 診療及び検査における看護師の役割	講義
2	検査の種類と治療	講義・演習
3	静脈血採血「目指せ！採血上手な看護師さん」	
4	静脈血採血	演習
5		
6	[与薬] 薬剤に関する基礎知識・法律・与薬における看護の役割	講義
7	様々な与薬方法と、看護	講義
8	輸血療法の看護	
9	皮下注射 指示の確認方法・アンプルの取り扱い方・薬液の吸い上げ方・注射部位の 選択方法・演習オリエンテーション	演習
10	皮下注射の実際	演習
11		
12	点滴注射	演習
13	点滴注射の実際	演習
14		
15	【グループワーク】 患者の命を預かる『責任』について考える。	GW
【教科書】 新体系看護学全書 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 看護が見える Vol② 基礎看護技術 メディックメディア 今日の治療薬 南江堂		
【参考書】		
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター。プラクティスに付属する動画(各自で視聴すること)		
【評価方法】 筆記試験:検査(30点)+与薬(70点)		

授業科目:基礎看護学援助論VI★		1単位 45時間 履修時期 1年生後期
内容	フィジカルアセスメント1 バイタルサイン測定	講師名:島田 亜子 看護師
【単元目標】 ①ヘルスアセスメント及びフィジカルアセスメントの概念、意義を理解する。 ②観察・記録の意義を理解し、バイタルサイン測定技術を習得する。		
回数	講義内容	学習方法
1	ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントとは バイタルサインとは 呼吸	講義
2	循環(脈拍)	講義
3	循環(血圧)	講義
4	循環(血圧)測定の実際	講義
5	体温	講義
6	バイタルサインの実際「呼吸測定」「脈拍測定」「血圧測定」「体温測定」報告含む。	演習
7		
8	観察 記録と報告	講義
【単元の評価方法】 筆記試験(40点) + 技術試験(20点)		
内容	フィジカルアセスメント2	講師名:満田 幸士 看護師
【単元目標】 ①フィジカルアセスメントを行う必要性を述べることができる。 ②5つの基本技術を安全に実施できる。 ③フィジカルアセスメントを用いて呼吸系・循環系の正常状態を観察、判断する。 ④演習を通して患者の立場に配慮した身体診察の提供方法を考える。 ⑤症例検討を通して、フィジカルアセスメントの実際の活用方法を考える。 ⑥グループワークを通して自己の意見を他者と共有し、フィジカルアセスメントについての知識を深めることができる。		
回数	講義内容	学習方法
1	フィジカルアセスメント ・問診、徴候からのアセスメント・聴診器の使用法	講義
2	フィジカルアセスメントの基本技術(問診、視診、聴診、打診、触診)	演習
3	呼吸系のフィジカルアセスメント1・胸部の解剖のおさらい・胚葉の位置の同定 ・演習・実際に気管分岐を書く(ビニール袋中とマジックペン太を用意)	講義
4	呼吸系のフィジカルアセスメント2・呼吸系の問診/視診/触診/聴診・正常呼吸音 と異常呼吸音・呼吸音聴取の実際 呼吸系の障害をもつ患者の看護・酸素療法の種類・酸素療法の使い分け ・演習・酸素療法を必要とする患者の日常生活援助・酸素療法の実際	講義・演習
5	呼吸系フィジカルアセスメントの実際	演習
6	循環系のフィジカルアセスメント・心臓の働き・心拍/脈拍の確認・不整脈 ・血圧測定・心電図・動脈触知	講義
7	循環系フィジカルアセスメントの実際 最後に次回使用する事例を渡し学習課題とする。	演習
8	呼吸循環系シュミレーション:事例を使用して	演習
9		
【単元の評価方法】 筆記試験:フィジカルアセスメント2(50点) + フィジカルアセスメント3(50点)		

内容	フィジカルアセスメント3	講師名: 島田 亜子 看護師
【単元目標】 ①フィジカルアセスメントを行う必要性を述べることができる。 ②5つの基本技術を安全に実施できる。 ③フィジカルアセスメントを用いて消化器系・感覚器系・脳神経の正常状態を観察、判断する(消化・感覚・意識・運動)。 ④演習を通して患者の立場に配慮した身体診察の提供方法を考える。 ⑤症例検討を通して、フィジカルアセスメントの実際の活用方法を考える。 ⑥グループワークを通して自己の意見を他者と共有し、フィジカルアセスメントについての知識を深めることができる。		
回数	講義内容	学習方法
1	一般状態のアセスメント・身体計測・体表面のアセスメント ・消化系のフィジカルアセスメント ・血管雑音の聴取・腸蠕動音の聴取 ・腹部の視診・触診・腹水の有無	講義・演習
2	中枢神経系のフィジカルアセスメント 意識状態を測る。 高次脳機能を評価する。	講義・演習
3	運動機能・関節可動域測定・筋力測定 ・神経・末梢循環系 姿勢の保持・運動系(脊髄・小脳系)のアセスメント	講義・演習
4	症状・徴候からフィジカルアセスメントの技術演習 ・頭部・頸部・胸部・腹部・四肢・腱反射他	講義・演習
5	感覚系のフィジカルアセスメント ・味覚・嗅覚・平衡感覚・皮膚感覚・深部感覚	
【単元の評価方法】 筆記試験: フィジカルアセスメント2(50点) + フィジカルアセスメント3(50点)		
【教科書】 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅰ 株式会社メディカルフレンド社. 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 株式会社メディカルフレンド社. 山内豊明 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院. 山内豊明 フィジカルアセスメントワークブック 医学書院.		
【参考書】 監修竹尾恵子: 看護技術プラクティス第3版, 学研 編集稲田英一: 呼吸循環イラストレイテッド, 学研		
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター		
【評価方法】 [フィジカルアセスメント1(60点)+終講試験: フィジカルアセスメント2(50点)+終講試験: フィジカルアセスメント3(50点)] ÷ 1.6		

授業科目:臨床看護総論★		2 単位 45 時間 履修時期 1年生後期
内容	プロジェクト学習 教育指導技術	講師名:堀内 吉美 看護師
【単元目標】 1 身近な人の健康を考えることを通して主体的に学習し、看護についての理解を深める。 2 看護を実践していくうえで、教育指導技術の重要性を理解し、その実践方法を理解する。		
回数	講義内容	学習方法
1	1. プロジェクト学習	講義・GW
2	1)準備 学習過程全体を把握する。	
3	「健康とは」を考える。	
4	2)ビジョン・ゴール	
5	3)計画	
	4)情報・解決策	
6	2. 看護の対象	
	3. 健康とは	
7	4. 情報とは	
	5. 対象者の「生活」を考える。	
8	指導の実際 グループで指導計画立案	発表演習
9	具体的な指導計画を立案する。	
10	指導の実際 プレゼンテーション	
11		
12		
13		
14	まとめ	講義
15		
【単元の評価方法】 筆記試験 — 3月 (出席状況、講義中の課題提出も評価に含む) 50点 凝縮ポートフォリオ・成長報告書・プレゼンテーション ・ピア評価 50点		
内容	看護過程	講師名:加納 里美 看護師
【単元目標】 事例を通して、看護の対象を発達段階や健康段階、その症状と治療をふまえて理解し、看護過程を使い看護を実践する方法を理解する。		
回数	講義内容	学習方法
1	1. 看護過程とは 2. 看護過程の構成要素	講義
2	3. 看護記録の構成要素 4. 情報収集と分析	講義
3	5. 代表的な症状の看護を考える方法を理解する。 1)嚥下障害	講義・GW
4	2)発熱 3)呼吸困難	

回数	講義内容	学習方法
5	6. 事例展開 1)アセスメント I	講義・GW
6		
7	6. 事例展開 2)関連図 3)アセスメント II	講義・GW
8		
9	6. 事例展開 4)看護計画 5)記録	講義・GW
10	まとめ	講義・GW
【単元の評価方法】 レポート評価 50点		
【教科書】 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術 I メガカルフレンド社. 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術 II メガカルフレンド社. 新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 メガカルフレンド社. その他1年次の学習で使用した教科書		
【参考書】 看護過程に沿った対症看護 学研メディカル秀潤社 その都度、授業で紹介する。		
【使用予定視聴覚機材】 PC、プロジェクター		
【評価方法】 [プロジェクト学習(50点)+教育指導技術(50点)+看護過程(50点)] ÷ 1.5		

授業科目： 基礎看護学実習 I ★	講師名： 全教員 看護師	1 単位 45 時間 履修時期 1年生後期
【実習目的】 看護の対象を理解し、対象に応じた日常生活の援助技術を学ぶ。		
実習目標	実習内容	
1 患者や家族とコミュニケーションを図ることができる。	1) 患者や家族を尊重した態度で接する。 2) 患者や家族への適切な言葉かけをする。 3) 患者や家族の話に耳を傾ける。 4) 患者や家族に分かりやすく自分の意志を伝える。	
2 患者の基本的ニードの充足状況から必要な援助が理解できる。	1) 患者の日常生活行動を観察し、入院前の生活と入院後の生活の変化を知る。 (1) 呼吸、循環、体温 (2) 食事、排泄 (3) 活動、休息 (4) 清潔、衣生活 2) 入院前後の変化からニードの充足状況を判断し必要な援助を考える。 (1) 正常性、日常性との比較から考える。 (2) 一般的な意義、目的から考える。	
3 患者に応じた日常生活の援助と診療の補助が実施できる。	1) 患者にあった援助方法を選択する。 2) 原理原則に基づいて実施する。 3) プライバシーへの配慮を行う。 4) 患者の反応を観察しながら実施する。 5) 実施の結果を振り返り報告する。 6) 援助項目 (1) バイタルサイン測定 (2) フィジカルアセスメント (3) 環境 (4) 活動、休息 (5) 清潔、衣生活 (6) 食事、排泄 (7) 診療の補助技術(見学中心)	
事前学習	実習オリエンテーションで説明	
授業時間	期間： 7日間 時間： 8:30～17:00(1時間休憩) 7.5時間/日	
【評価方法】 評価基準に基づき評価する。		

授業科目： 基礎看護学実習Ⅱ★	講師名： 全教員 看護師	2 単位	90 時間	履修時期 2年生後期
【実習目的】 看護過程の展開方法を看護実践から学ぶ。				
実習目標		実習内容		
1 看護アセスメントができる。 1) 必要な情報を収集する。 2) 情報を整理・分類する。 3) 情報の解釈・分析・統合する。 4) 看護上の問題を抽出する。		(1)アセスメントツールを活用し必要な情報を収集する。 ①患者の反応(行動)とその反応に影響を与えている因子を意図的に情報収集する。 ②主観的情報と客観的情報の二側面より収集する。 (1)適切な情報収集の手段を活用する。 (2)アセスメントツールに沿って情報収集したものを項目毎に整理、分類する。 ①情報の意味するものを考えながら整理、分類する。 ②情報間の繋がりを考えながら整理、分類する。 ③不足情報を収集する。 (1)解釈 ①収集した情報は正常か異常か(健康か不健康か)を判断する。 ②今後とも注意して情報収集が必要なのかを考える。 ③逸脱情報だけにとらわれず看護上の問題を解決するためにつよみも判断する。 (2)分析・統合 ①逸脱と解釈した場合の原因と成り行きを考える。 ②逸脱情報毎に関連している情報をまとめ、看護上の問題を推定する。 (1)看護活動によって解決又は緩和できると考えられる健康上の問題を抽出する。 (2)問題の優先順位を決定する。 ①「実在する問題」が「潜在する問題」「可能性のある問題」に優先する。 ②生理的反応に関する問題が心理社会的反応に関する問題に優先する。		
2 看護計画を立案する。		1)看護目標を設定する。 (1)看護の方向性と援助の方法を示すもので看護行為の根拠となる。 (2)患者に対する総合的な看護目標で「期待される結果」の積み重ねであり看護の方向を示す。		
3 計画的に看護を実践する。		1) 毎日の援助計画が具体的に立案できる。 2) 既習の看護技術を適応し計画的に援助する。 3) 実施した援助を患者の反応に照らして評価する。		
4 看護の評価・修正をする。		1) 実施した結果より解決目標の達成度を評価する。 2) 目標達成に影響したプラスの要因とマイナスの要因を整理する。 3) マイナスの要因に対しては修正を加え計画を立案し実施する。		
5 看護チームの一員として患者・家族、保健医療福祉チームと良い人間関係を築く		1) 相手を尊重し、共感的態度で接する。 2) 患者や家族とコミュニケーションがとれる。 3) 看護チームの一員として周囲の人々と協力する。		
事前学習	実習オリエンテーションで説明			
授業時間	実習期間：2年生後期の14日間 実習時間： 8:30～17:00(1時間休憩) 7.5時間/日			
【評価方法】 評価基準に基づき評価する。				